2026年11月13日

各　位

会　社　名　株式会社オークファン
代表者名　代 表 取 締 役 社 長　武永　修一
（コ ー ド 番 号　3674 東証グロース ）
問合せ先　執行役員 経営管理部長　市橋　哲
（TEL 03-6809-0951）

2027年９月期の配当予想（初配）に関するお知らせ

当社は、本日付の取締役会（書面決議）において、当期（2027 年９月期）の期末配当について、１株当たり３円の配当を実施する方針を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、当社にとって創業以来初めての配当となる予定です。

記

１．初配当実施の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと認識しつつ、これまで事業成長に向けた投資や財務基盤の強化を優先し、創業以来配当を実施しておりませんでした。

当社グループでは、既存事業の収益基盤の強化に取り組むとともに、2025 年より AI プロダクツ「APLAB」「KACHIKA」及びライブコマースの新規事業を立ち上げ、先行投資を行いながら育成・拡大を推進してまいりました。2026 年９月期には、AI プロダクツの売上高が約 15 億円（第４四半期は前年同期比約４倍）に達し、TikTok Shop を中心とするライブコマースの販売額も第４四半期に前年同期比約 10 倍へ拡大するなど、新規事業は本格的な成長段階に入っております。

また、これらの新規事業は、物流倉庫の確保をはじめとする初期投資のフェーズを終え、先行投資として確保した倉庫も高い稼働水準に達するなど事業基盤の構築が進んだことから、一定の利益を見込める段階に移行しております。

その結果、2026 年９月期の連結業績は、売上高 5,864 百万円（前期比約 26％増）、営業利益 95 百万円（前期は営業損失 201 百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益 44 百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失 329 百万円）となり、黒字転換を果たしました。四半期ベースでも、第２四半期以降３四半期連続で営業黒字を計上しております。

さらに、2027 年９月期においては、AI プロダクツ及びライブコマースの事業損益（管理会計ベース）がいずれも黒字化する見込みであり、NETSEA のシステム障害による影響を保守的に織り込んだうえで、連結売上高 7,000 百万円（前期比 19.4％増）、営業利益 210 百万円（同 121.0％増）、親会社株主に帰属

する当期純利益 120 百万円（同 169.6%増）と、２期連続の黒字及び増収増益を計画しております。中長期的にも、AI プロダクツ及び OEM 支援において、さらなる利益成長を見込んでおります。

これにより、既存事業に加え、AI プロダクツ及びライブコマースを中心に安定的に利益を計上する体制が整ったものと判断しております。また、当社は自己資本比率 57.4%、現金及び預金 3,441 百万円と健全な財務基盤を有しております。こうした事業の進展に加え、今後の業績見通しや財務状況、将来の成長投資等を総合的に勘案した結果、成長投資と株主還元の両立を図ることが可能であると判断し、2027 年９月期の期末配当として、１株当たり３円の初配当を実施する方針といたしました。なお、2027 年９月期の予想配当性向は 26.3%となります。

今後は、中長期的に連結配当性向 30%程度を目安とし、業績動向や財務状況、将来の成長投資等を総合的に勘案しながら、持続的な企業価値の向上と株主還元の充実に努めてまいります。

また、株主優待制度につきましても、従来の QUO カード Pay の進呈を継続するとともに、100 株以上を保有する株主様を対象に AI プロダクツ「AP LAB」「KACHIKA」商品の 15%割引クーポンを新設するなど拡充を図っており、配当と併せて株主の皆様への還元の充実に努めてまいります。

２．配当予想の内容

	年間配当金				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	期末	合計
今期予想 (2027 年９月期)	―	0 円 00 銭	―	3 円 00 銭	3 円 00 銭
（参考）前期実績 (2026 年９月期)	―	0 円 00 銭	―	0 円 00 銭	0 円 00 銭

(注) 上記の配当予想は、本資料の発表日現在において当社グループが入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、実際の配当は、今後の様々な要因により大きく異なる結果となる場合があります。

以　上